



20



伊那谷と木曾を結ぶ大平街 一、三五八段。天井のコンクリートの間にあり、古くから多リートが露出した古いトンネルの旅人が行き交った。標高

広がる。近くには、明治時代に建てられた道標と石仏が並ぶ。峠から飯田方向に戻ると、かつては宿場として栄えながら、一九七〇（昭和四十五年）に集団移住で無人となった大平宿に入る。

江戸時代に開発された大平宿は明治から昭和初期にかけて、物資輸送の拠点として

旅人が通った険しい道

ぎわった。飯田下伊那の子どもたちは大平峠を歩いて越え、修学旅行に出たという。

しかし、鉄道や道路の整備が進むにつれ、大平宿は衰退。高度成長期後の過疎化を受け、二百年を超える歴史に終止符を打った。残された建物は地元有志の手で守られ、山村生活が体験できる場として利用されている。

大平街道沿いの山は、もうすぐ紅葉に染まる。だれもない大平峠に立って耳をすませると、険しい道を歩く旅人の足音がどこか遠くで聞こえる気がした。

(中山道雄)

大平峠

(飯田市・南木曾町境)



大平街道の「大平峠」にあるトンネル。向こうは南木曾町＝飯田市で